



## 「いざ鎌倉」ってどんな意味なの

### 鎌倉に大事があれば、直ちにかけてやる心構え

1192年、源頼朝は、鎌倉に幕府を開きました。これは初めての武士の政権でした。今でも、鎌倉市に行くと、鎌倉幕府をしのばせるものが、いろいろ残っています。

「いざ鎌倉」は、鎌倉に幕府があったときのことばです。もしも、鎌倉幕府に重大な事件が起こったり、あるいは、幕府から非常の呼び出しがあったときは、直ちにかけてやる用意や心構えがあるぞ、という意味です。このことから、「いざ鎌倉」ということばは、「大事が起こった場合」とか、「さあ、大変だという場合」の意味に使われています。

### 「いざ鎌倉」ということばができたいきさつ

鎌倉幕府の第5代執権北条時頼が、身分を隠して、諸国を見回ったとき、上野国(群馬県)佐野荘の佐野源左衛門の家に泊まりました。源左衛門は、貧しかったので、雪の降る寒い夜に、火にくべるまきがありませんでした。そこで、大事にしていた鉢の、木を切って燃やし、時頼を暖めてくれました。そして、源左衛門は、「私の武器はさびているし、馬はやせているが、もし、鎌倉に大事があれば、いちばん先にかけてやる、合戦になれば、いちばん先に敵陣に飛びこんでいくかくごでいる」と言いました。

鎌倉に帰った時頼は、諸国の武士たちに「鎌倉に大事件が起こったので、直ちに集まれ」と命令しました。すると、本当に、源左衛門が、さびた武器をもち、やせた馬に乗って、真先に駆けつけてきました。この話から、「いざ鎌倉」ということばができたのです。

(監修・田代 脩)

